合 計

JAえちご中越 さんとう地域「JA米 慣行栽培こしいぶき」栽培暦

*** 令和5年産まで特別栽培米(5割減減栽培)として生産に取り組んできたこしいぶきは、令和6年産より使用する肥料(N施肥量)・農薬(使用成分回数)に制限のない「慣行栽培」に取扱区分を変更します *** 5 月 6 月 7 月 8 月 9 月 4 月 \Box 10 15 20 25 10 15 20 25 10 15 20 25 10 15 20 25 5 10 15 20 25 5 10 15 20 25 出穂前後日数 品種特性に合わせた -23 -14 0 +38 作業計画の策定 560 本 《稚苗の規格》 草刈ウィーク 種子消毒 530 本 80 cm 程長 80 cm (温湯消毒) 草丈 12.0cm 7/6~13 葉齢 2.0~2.3 葉 ㎡穂数 420 本 【作業目安】 420 本 第1葉鞘長 4.0cm 340 本 生 55~60cm 浸種開始 *こしいぶきは、苗が伸びにくい→ 4月 3日 草刈ウィーク 40~45 cm 育 緑化終了時の苗丈めやす: 4cm 病害虫防除の徹底(紋枯病・いもち病・カメムシ) 気象予報と出穂以降の積算温度 6/8~15 ス にもとづく「刈取計画の策定」 30 cm 的確な生育診断による適切な穂肥施用 40.0 催芽 4月13日 ㎡茎数 60本 35.0~37.0 ジ 草丈 葉色 34.0 12cm 全ほ場で溝切り 播種 4月15日 播種量の目安:140g/箱 育苗日数は 田植え 中干し開始 回目穂肥 出穂期 収穫期 20日程度 5月5日~ 6月5日~ 7月28日 9月4日~ 【カメムシ防除】スタークル剤 6月中旬~ 【いもち病予防】 【紋枯病防除】 病害虫 補植苗"を バリダシン剤(収穫14日前まで) 福わら秋すき込み ブーンパディート箱粒剤 早期発見 防除 除草剤散布 早期に撤去する 葉いもち病 早期防衛 穂ぞろい期 播種時~移植当日 穂ばらみ期~出穂期 ・田植後→3~4cmのやや深水で植え傷み回避 飽水管理の継続 ⇔ タメ水厳禁 フェーンの発生時:地域の水利条件等に応じた 一時湛水 生育量を把握して遅れずに!! やや深水 出穂後 25 日以降に ・活着後→2~3cmのやや浅水で早期分げつ促進 (異常高温時には一時湛水) 夜間水温を下げるこまめな水管理の徹底 小ヒビが入る程度になったら終了 水管理 浅水更新 最終かん水を実施! ・除草剤散布時→湛水状態(水深5~6cm)で散布 ・中干し開始まで→浅水更新でワキの発生防止 中干し・溝切り 落水期 Point 2 Point 5 Point 3 Point 4 Point 6 Point ~適正な作業計画の策定により ~適期田植えで ~生育状況にあわせた生育調節で ~病害虫防除と水管理の徹底で ~適切な生育診断による穂肥施用 ~適期刈取、適切な作業により 初期生育を確保します~ →品質・収量を確保します~ 健苗を育成します~ 過剰生育を抑制します~ 稲体機能を維持します~ 高品質米に仕上げます~ ① 播種計画の策定~適期播種、適正 ① 移植前追肥(べんとう肥)の施 ① 目標穂数の80%(340本/㎡= ① いもち病・紋枯病の早期発見~ ① 穂肥は出穂23日前(遅れず施肥 ① 出穂後の積算気温:975℃**を**参考 な播種量、育苗期間20日程度で健 用→活着・初期生育を促進 1株あたり19本)を確保してから 早期防除(こまめにほ場巡回) →籾数確保)と14日前の2回に に籾の黄化率(85~90%)を確認 →適期中干し開始 ② 中干し以降は、田面が強く乾く 分けて施用→1回あたりの施肥 して適期に収穫する→異常高温が 苗を育成 ② 田植期のめやすは5月5日 栽 ② 土壌診断結果にもとづく土づくり ・栽植密度:60株/坪 ② 全ほ場で溝切り(10条:3mに1本) ことのないよう飽水管理を継続 量はN:1.5~2.0kg/1回、合計 予想される場合には早めの収穫を 資材(有機質・ケイ酸)の施用 ·植付本数:3~4本/株 →速やかなかん水・排水管理 (強い中干し・タメ水→厳禁) 3.0~4.0kg/10aを目安とする 検討する 培 ② 穂発芽性は「やや易」→刈り遅れ ③ 本格的な梅雨入り前にしっかり地 ③ 出穂後25日以降に最終かん水 ② 2回目の穂肥は確実に施用する ③ 作土深15cmの確保~ほ場条件に ・植付深さ:2~3cmの浅植え 管 を入水(落水は出穂28日以降) ③ 出穂期の葉色低下や登熟期間の 応じた適正量の基肥施肥 ③ いもち病の発生しやすい地域 固め→中干しは小ヒビが入る程度 に注意する 理 →基肥N施肥量のめやす:植壌土 ほ場では予防防除(箱施用剤) になったら終了~遅くとも出穂30 ~異常高温時には、速やかに一 異常高温が予想される場合、3回 ③ 収穫後は早めに土づくり資材の投 0 日前までに飽水管理へ移行《生育のめやす》 「3.0kg~4.0kg/10a」、砂壌 を徹底→補植苗を速やかに撤去 時湛水~高温障害を防止 目穂肥として出穂3日前までに 入+稲わらの秋すき込み ポ N: 1.0kg/10aを追加施肥する 土・黒ボク土「4.0kg/10a」 1 《施肥のめやす》 (成分 kg/10a) 《生育のめやす》 《品質向上·収量確保目標》 《品種特性》 草丈 茎数 葉色 区分 時期 N成分 備考 早晩牛 耐倒伏性 葉いもち 穂いもち 紋枯病 玄米1等級比率 90%以上 生育ステージ 時期 (本/m²) (SPAD) (cm) 稲わら秋すき込み 弱 土づくり 収穫後~耕起前 やや強 ф ф 10a当たり収量 570kg 有機質・けい酸質資材 7/5 530 1回目穂肥 55~60 350~370 基肥 耕起前~田植え 3.0~4.0 地力に応じて 《収量構成要素》 穂肥1 出穂23日前 1.5~2.0 遅れずに施肥〜籾数確保 2回目穂肥 7/14 35.0~36.0 収量 1穂籾数 登熟步合 穂数 m²籾数 千粒重 穂肥2 出穂14日前 1.5~2.0 しっかり施肥~登熟向上

80

(稈長)

7/28

出穂期

*一発基肥トータル

 $N: 7.0 \sim 7.5 \text{kg}$

6.0~8.0

420

(穂数)

34.0

(kg/10a)

570

(粒)

70

(本/m²)

420

(百粒)

290

(%)

90%

(g)

22.0